

メッセージアウトライン

ヤコブの手紙 5:19~20 「罪人を引き戻す者」

19~20 節はヤコブ書の結びの文である。

[19]「私の兄弟たち。あなたがたのうちに、真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すようなことがあれば、」

ここでは、クリスチャンになって、その後に真理からそれ、信仰から迷い出ている状態の人、神から遠く離れてしまった状態の人のことがあげられている。忙しさに追われて、教会から足を遠のけてしまったり、この世の与えるもののほうが楽しそうに、また魅力的に見えてそちらに引かれて行ったり、クリスチャンの言動につまずいたり、傷ついたりして失望し、信仰生活から遠ざかってしまう場合もあるかもしれない。

しかし、どのような理由がついていたとしても、その人がキリストから離れ、神を知らない普通の人のように歩んでいるならば、その人は真理から迷い出ていると言わなければならない。悲しいことにこのような例は少なくない。それは信仰の初心者だけではなく、長年信仰生活を送ってきた者の間にも見られる。→Ⅱテモテ 4:10 (デマス) そして最も心を痛め、さびしく思っておられるのは神ご自身である。

このような時にだれかがその人を連れ戻すことができるならば、天においても教会においてもどれほど大きな喜びがあるだろうか。では「だれか」とは誰か。それは牧師や長老、役員だけのことではない。私たち一人ひとりがその「だれか」になる必要がある。自分の友人やよく知っている人が真理から迷い出た時、私たちは知らぬ顔をしていられるだろうか。何とかしてその人を引き戻したい、神のもとへ帰ってもらいたいと思うのではないだろうか。それゆえ、このことばは私たち一人ひとりに対して語られていると思わなければならない。

牧師や役員が真理から迷い出た兄弟姉妹のところに行って何とかして導こうとしても容易に心を動かさない人が、友人が行って話すと心を開き、今までの態度を改めるということがしばしばある。それゆえ、私たちも迷っている人を連れ戻すために労し、祈りをもってとりなしていく者となりたい。

[20]「罪人を迷いの道から引き戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの罪をおおうのだということを、あなたがたは知っていないさい」

「罪人を迷いの道から引き戻す者」とは 19 節の「だれか」であり、それは私たち一人ひとりに当てはまることであった。このような人は神がなさる大きなわざに参加していることになる。

①罪人のたましいを死から救い出す働き。……このような人を迷いの道、罪の道からキリストももとへ引き戻す者は、迷い出した者のたましいを死から生へ、滅びから救いへと移し替える尊い働きにたずさわっている。

②多くの罪をおおう働き。……真理から迷い出た多くの罪を重ねていた人が、キリストのもとへ引き戻されることによって、神の赦しと愛によってその罪をおおわれる。

ルカの福音書 15 章の放蕩息子のたとえのように放蕩息子を父なる神のもとへ引き戻すような働きをする人は、またその人の多くの罪をおおう働きにたずさわっているのである。

もちろん、罪人のたましいを死から救い出すことも、多くの罪をおおうのも神ご自身のわざである。救いと赦しは神ご自身がなさること。しかし、それにもかかわらず、神は私たちがその働きに参加することを願っておられる。そして私たちを通して働き、私たちを通して迷いの道にいる者に、私のもとに帰りなさいと嘆願されるのである。

私たちは信仰によって祈りつつ、主のわざに励む者になりたい。

最後に→Ⅱコリント 5:18~21